

文献から見る他県での感染事例

岩手県立中央病院 小石 明子

クラスター対策班接触者追跡チームとしての疫学センター・FETPの活動報告

2020年5月20日現在

国立感染症研究所 感染症疫学センター

国立感染症研究所 実地疫学専門家養成コース

札幌市内中核病院における医療従事者の新型コロナウイルス感染症事例の感染伝播について

(IASR VOL.41 P129-130:2020年7月号)

札幌市内の高齢者向け社会福祉施設における新型コロナウイルス感染症事例の特徴

(IASR VOL.41 P130-131:2020年7月号)

大阪府内の某介護医療院におけるCOVID-19syuudann感染-院内での伝播、対策、その効果

(IASR VOL.41 P131-132:2020年7月号)

医療機関事例での感染拡大要因

- 基本的な手指衛生の不徹底、不十分
- 不適切なPPEの使用
- COVID-19が疑われていない場合の不十分な標準予防策
- 不適切なゾーニング
- ICT,ICNおよび病院全体として、データ管理体制が備わっていない
- 指示系統が未確立、関係者間の情報共有が不十分であったことが全体像の把握と初期対応の遅れ、感染拡大助長の要因となった

医療機関の感染拡大経路

患者から職員	職員から患者
<p data-bbox="191 568 489 639">接触感染</p> <p data-bbox="191 749 1210 906">看護、介護等の業務に伴う飛沫、 身体接触の多いケア</p>	<p data-bbox="1294 568 1770 639">飛沫・接触感染</p> <p data-bbox="1294 749 2344 1078">食堂、休憩室、更衣室などの換気 しにくく、狭く密になりやすい環境 物品の共有（仮眠室のリネン、 PHSなど）</p>

福祉施設事例の特徴

- ① 介護支援などで密接に接触する機会が多い
職員が必ずしも感染管理に精通していない



感染拡大規模が大きくなり、長期化しやすい

- ② 高齢者の場合、重傷者リスクが大きい

事例【介護医療院 E病棟60床】

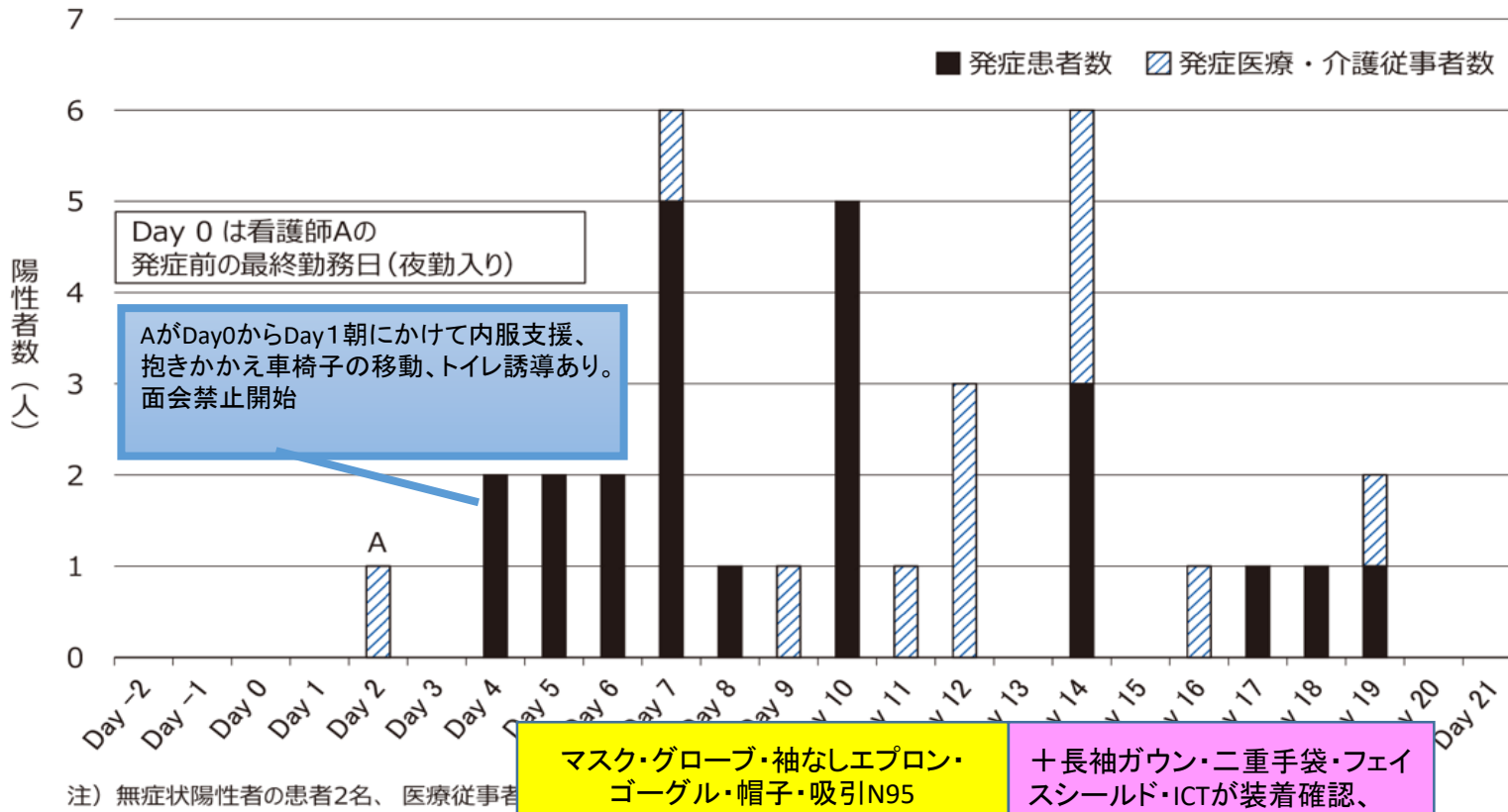


図. 発症日でもみた大阪府内の介護医療院の1病棟におけるCOVID-19陽性者数

- 50代A看護師
37.7度の発熱・咳嗽・全身倦怠感
→ 4日後にCOVID-19の診断
適切なゾーニングとガイドラインに沿ったPPE装着に切り替え、新たな感染が起きなくなった

ゾーニング

事例【中核病院 A病棟】

- 4月13日より・・・看護師28人中19名が感染、9名が濃厚接触者
- 4月21日より、他部署の看護師23名が応援業務につく
→ 5名が発症

【PPE使用状況や、勤務状況を電話インタビュー】

表. A 病院 COVID-19 陽性者対応病棟における応援看護師の業務状況

職種	勤務開始日	発症日	勤務回数	連続勤務時間	PPE指導	N95マスク再使用	サージカルマスク再使用	ガウン再使用
看護師A	4/22	5/2	日勤3回 準夜2回	約4～7時間	業務当日 病棟師長より	1枚/日	1枚/2日 途中から1枚/日	1枚/日
看護師B	4/23	4/30	日勤5回	約4時間	業務翌日 スタッフより	1枚/日	1枚/2日 途中から1枚/日	1枚/日
看護師C	4/21	4/27	日勤3回 準夜1回	約4時間	業務翌々日 訓練を受けた人から	1枚/日	1枚/2日 途中から1枚/日	1枚/日
看護師D	4/23	5/4	日勤6回 深夜1回	約4時間	業務当日 ICNなどより	1枚/日	1枚/2日	1枚/日
看護師E	4/23	5/16	日勤2回 深夜2回 準夜2回	約4時間	業務当日 病棟師長より	1枚/日 5/7～すべて 単回使用	1枚/1日 5/7～すべて 単回使用	1枚/日 5/7～すべて 単回使用

- ・4月は全国的にPPEが不足しており一部PPEについては例外的に再使用の文章などが出されていた時期
- ・PPE再使用方法や管理方法が日々変更された → 慣れない環境での煩雑なPPE使用となった
- ・汚染ゾーン付近でのマスクの着脱 → 換気が悪い環境でウィルス飛散と吸引
- ・PPEを着脱再使用を避けるため休憩をとらない → N95マスクを長時間使用すると呼吸が苦しくマスクがずれ、顔を触る
- ・PHSをガウンの上から使用 → ガウンに触れて汚染されたPHSを顔の近くで使用する曝露の可能性
- ・PPE指導が応援の当日や、翌日 → 慣れていない

【対策】

- 5月7日からN95マスクを脱衣する場所を汚染ゾーンから離れた場所へ変更
- PHSをガウンの上から使用することを禁止
- PPE再使用の中止
 - 新規発生なし

【課題】

- N95マスクの連続使用時間の検討・・・2～3時間程度が限界か
- 通常より多くの看護師を配置
- 手指衛生の確認、PPE着脱場所・着脱方法、再使用
- 適切な労働時間

【事例】高齢者向け社会福祉施設の事例

施設の種別別に調査票を用いて調査

【入居型】

介護老人保健施設、老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅

【通所型】

通所介護

【訪問型】

訪問看護ステーション

表. 札幌市内高齢者施設における施設種類別のCOVID-19症例発生状況および各施設の探知前職員入所者の健康観察実施状況

施設種類	施設数	確定症例数		濃厚接触者数 中央値 [範囲]	初発症例属性		探知前の健康 観察実施施設数	
		職員	入居者・利用者		職員	利用者	職員	利用者
入居型	8 (62%)	21 (65%)	74 (86%)	11 [2-75]	0	8	2	7
通所型	4 (31%)	9 (28%)	11 (13%)	31 [0-73]	2	2	2	4
訪問型	1 (8%)	2 (6%)	1 (1%)	21 [21-21]	1	0	1	1
計	13	32	86	21 [0-75]	3	10	5	12

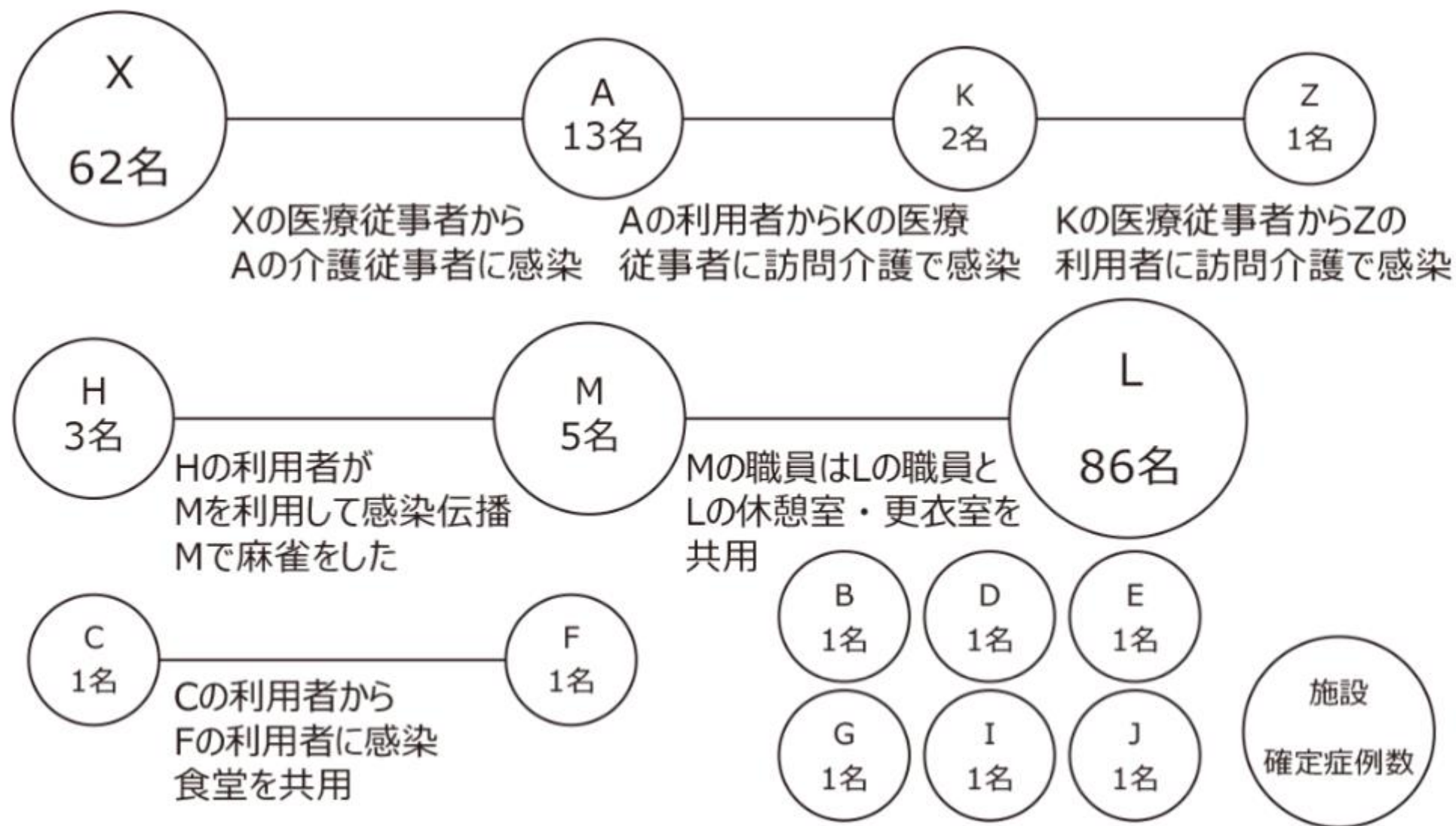


図. 札幌市内高齢者施設 COVID-19 事例の推定感染経路

流行期に必要な対応

- 訪問診療、通所介護等の要否を確認し、不要不急は実施を延期
- 施設に訪問または通所する場合、事前に訪問者と利用者の健康状態を確認し、感染が否定できない症状がある場合は、サービスの提供や利用を控える
- 有症状の利用者は個室に隔離し、有症状の職員は自宅で安静を基本とする
- 施設内の集団での作業（食事、就労作業、レクリエーション等）を一時中止する

COVID-19を防ぐには・・・

- まずは、持ち込みを防止する努力
- 持ち込まれたときの早期探知と対応の体制作り
- 複数のCOVID-19患者が発生した時の支援体制などの調整をすすめる